

第4学年 道徳学習指導案

2組 計29人（男子14人 女子15人）

指導者 吉田 泰斗

- 1 主 題 名 目標に向かって努力する心（1－(2) 勤勉・努力，忍耐）
読み物資料「グレンよ，走れ」（学研教育みらい4年）

2 主題について

(1) 内容項目と その系統

【低学年1－(2)】

自分がやらなければならぬ勉強や仕事は，しっかりと行う。

【中学年1－(2)】

自分でやろうと決めたことは，粘り強くやり遂げる。

【高学年1－(2)】

より高い目標を立て，希望と勇気をもってくじけないで努力する。

(2) 指導内容についての基本的な立場

努力とは，自分の立てた目標に向かって積極的に取り組むことである。物事に精魂こめて努め励むことは，人間にとって重要なことである。しかし，努力し続けることは容易なことではない。人間は，目標を実現する上で困難な障害に直面した場合，それをやり遂げようとする強い意志と忍耐力，そして工夫や行動力が必要である。

この期の子どもたちは，ボール遊びなど興味・関心のあることに対し，目標を立てて積極的に取り組む傾向にある。しかし，上手くいかなかったり失敗したりすると，すぐにあきらめたりやめてしまったりする姿が見られる。また，目標に向かって努力することのよさ（よりよい自分になれる，達成感を味わえるなど）の実感を伴った実践にまで高まっていない場面も見られる。

そこで本主題では，目標に向かって努力し続けることのよさに目を向け，より広い視点から考えられるようにしていく。また，目標に向かって努力することが自分にとってどのような喜びを生み出すのか，自分以外の人や集団にとってどのような幸福につながるのかを理解できるようにする。そして，主として自分自身に関することに焦点化していく。このように，意識を高めることによって，努力することの願いが明確になり，より意欲を高めた実践につなげたい。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

第3学年及び第4学年

自分でやろうと思ったことを，粘り強くやり遂げようとする態度を育てる。

道徳的实践を支える考え方や感じ方

対自分	ア 目標を達成できて気持ちがいい（自己の達成感） イ 目標を達成できた自分がうれしい（自己の成長・自信） ウ 目標に向かって努力を続けられてうれしい（興味・関心）
対他者	エ 最後までやり遂げると褒められる（他者からの称賛） オ 最後までやり遂げた成果を見せられる（他者への安心感） カ 共にやり遂げるよさを理解し合える（他者との共感） キ 共に切磋琢磨し合える（信頼関係の確立）
対社会	ク みんなでやり遂げると仲間意識が生まれる（社会への所属感） ケ みんなで気持ちよく暮らせる（明るく楽しい生活） コ 互いに協力し，やり抜く社会ができる（魅力ある社会の実現）

二面性

心の葛藤

実践を阻む要因

- a 焦燥感・不安（焦って落ち着かない）
- b 自信の欠如，逃避（難しい，あきらめた）
- c マンネリ化（飽きた）
- d 怠惰（面倒だ）
- e 楽観（これくらいいいや）
- f 無関心（興味・関心がない）
- g 他への欲求（他にしたいことがある）

心 構 え

- ① よりよい自分になれる（向上心）
- ② 達成感を味わえる（達成感）
- ③ やり抜くことのよさを考える（意義）
- ④ 自分の未熟さを学ぶ（謙虚）
- ⑤ 我慢強さが身に付く（忍耐）
- ⑥ 他人の幸福につながる（利他）
- ⑦ 見通しがもてる（計画性）
- ⑧ やり遂げ合う関係をつくる（共生）
- ⑨ 目標を達成しようとする強い意志をもてる（意志）
- ⑩ 自分で目標を立てられる（自主性）

(4) 本主題に関連する体験活動等

【事前】	【事後】
☐ 学習活動（宿題を最後までやり終え提出できていたか） ☐ 係・当番活動（責任をもって最後まで活動できていたか） ☐ 秋季大運動会（最後まで力を出し切れていたか） ☐ 妙円寺遠行（最後まで歩き通せていたか）	☐ 学習活動（宿題を最後までやり終え提出することができるか） ☐ 係・当番活動（責任をもって最後まで活動することができるか） ☐ 家庭・地域生活（地域の行事に粘り強く参加することができるか） ☐ 城山登山競走大会（最後まで走り通すことができるか）

（経験の想起）

【本 時】

11月「目標に向かって努力する心」（1-2）勤勉・努力、忍耐
 ※ よりよい自分になれる（向上心）

（よりよい生き方を目指した行動）

【本時と関連する道徳の時間】

5月 「やりぬく心」（1-2） 勤勉・努力、忍耐
 途中でひとりになったとき、寂しかっただろうな。 は、子どもの意識
 ※ 導き出したい「大切にしたい考え」… 他人の幸福につながる（利他）

9月 「ねばり強くやり遂げる」（1-2） 勤勉・努力、忍耐
 9年も努力を続けるなんてすごいな。 花が咲いた時うれしかっただろうな。
 ※ 導き出したい「大切にしたい考え」… 達成感を味わえる（達成感）

3 子どもの実態（調査日 平成24年9月7日、調査人数 29人 複数回答あり）

(1) 本主題に関する経験場面①

やり通すことができた経験	人数
・ 手伝い、登り棒、竹とんぼ、ソーラン節、リフティング、野球、水泳、鉄棒、バレー、ゲーム、そろばん、あやとび、スケートボード、わり算など	28
・ 自転車、宿題、ピアノ、など	6

(2) 本主題に関する経験時の感情

やり通すことができた時の気持ち	人数
・ すっきり、気持ちいい、うれしい、。	25
・ またやろう、やってよかった。	4
・ がんばれた、安心する。	2
・ 暗いところから出た。	1
・ 花が咲いた。ありがとう。	1

(3) 本主題に関する経験場面②

やり通すことができなかった経験	人数
・ 早寝早起き、逆上がり、ゲーム	15
・ サッカー、読書、宿題	9
・ ドリル、掃除、習字、ピアノ、英語、びっくり箱、手伝い、テレビを見る時間	8

(4) 本主題に関する経験の理由

やり通すことができなかった理由	人数
・ 面倒くさかった。	10
・ あきらめた。	7
・ 弱い心に負けた。	3
・ 失敗したからイライラした。	2
・ 努力不足、難しい、他の人につられた、迷った、始めるのが遅かったなど。	9

(5) 道徳的価値の意義

やり通すとどんなよいことがあるか	人数
・ 自分が成長できる。	10
・ 褒められる。	8
・ スッキリする。	7
・ うれしい。	7
・ これからもがんばる、前向きになる。	4
・ 周りが喜ぶ、みんなと楽しめる。	4
・ 将来のため、何か買ってもらえる。	4
・ もっといいことをしたくなる、我慢できる、自分に返ってくる、大人になる。	6

(6) 道徳的価値に対する心構え

やり通すためにどんな考えをもつか	人数
・ あきらめないぞ、やるぞ。	17
・ いいことが待っている。返ってくる。	6
・ 優しい気持ち	2
・ 我慢強くぐっとこらえる、負けない。	2
・ できた時を考える。	1
・ がんばった自分に御褒美をあげる。	1
・ 相手を気遣う。	1
・ プラス思考、余計なことを考えない、自分の勉強になる、感謝される。	4

【考 察】

(1)から、最後までやり通すことができた経験を学級の全ての子どもがもっていることが分かる。(2)から、やり通すことができた時の気持ちには「すっきりした」、「やってよかった」という達成感を多く味わっていることが分かる。(3)から、最後までやり遂げることができなかった経験も全員の子どものもっていることが分かる。(4)の理由としては「面倒くさかった」「あきらめた」などの理由が多いことが分かる。このことから、つらいときや苦しいときに怠惰な気持ちや逃避の傾向が強い子どもが多いといえる。また、「弱い心に負けた」と自分の弱さに目を向けている子どももいることも分かる。(5)から、最後までやり遂げることの意義については、「自分が成長できる」、「これからもがんばる、前向きになる」というように、やり遂げると自分自身の成長につながるという考えをもっていることが分かる。(6)から、やる遂げるための心構えとして「あきらめない」、「いいことが待っている」、「我慢強くぐっとこらえる」、「できた時を考える」といった様々な心構えをもっていることが分かる。

本時では、この調査を踏まえ努力を続けると様々なよさにつながることを知りながらも、できなかった経験もあることを自覚させ、それらに対比することで、意識と行動の矛盾を問題設定に生かしていきたい。その後、資料を通して考えたことから価値の自覚を図る際、「資料に出てきた人物はすごいが自分にはできない」とならないために、「どのような考えをもつことができれば、自分も努力を続けることができるのか」と自分のこととして考えさせる必要がある。そのためには、導入場面で「どうしたら努力できる人になれるのか」といった問題意識をもたせるため、より子どもの心を揺さぶる問題提起をして、自分のこととして考えるように大事に扱っていききたい。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

ある日、事故に遭い足に大やけどを負ってしまった主人公のグレン。医者から「歩けるようにはなれないだろう。」と言われた。しかし、「歩けるようになってみせるぞ。」と決心し、毎日毎日歩く練習を重ねた。また、食事にも気を配るなど努力を怠らなかった。その結果、歩けるようになり、さらに努力を重ね、オリンピックで銀メダルを獲得した。

(2) 資料の分析・子どもの反応予想

場 面	分析 (価値構造図 p153から)	予想される子どもの反応
1 「歩けるようにはならないだろう」と医者と言われたグレン 【不安】 【絶望】	a 焦燥感・不安 (どうなるのだろう) b 逃避 (あきらめた) d 怠惰 (面倒だ) オ 他者への安心感 (対他) ⑤ 忍耐 ⑥ 利他	- これから先どうなるのだろう。 - もう歩くことはできない。 - 訓練するのが面倒だ。 - お母さんを悲しませたくない。 - 我慢しよう。
2 歩けるようになるために努力を重ねるグレン 【熱意】 【迷い】	イ 自己の成長・自信 (対自) ウ 興味・関心 (対自) カ 他者との共感 (対他) ケ 明るく楽しい社会 (対社) a 焦燥感・不安 (どうなるのだろう) ⑤ 忍耐 ⑥ 利他 ⑨ 意志	- 歩けるようになってみせるぞ。 - 努力を続けることができてうれしい。 - お母さん見ててね。 - みんな楽しく暮らせるぞ。 - 治るのだろうか。
3 歩けるようになり、オリンピックで銀メダルをとったグレン 【感動】 【喜び】	ア 自己の達成感 (対自) カ 他者との共感 (対他) キ 信頼関係の確立 (対他) ク 魅力ある社会の実現 (対社) ① 向上心 ② 達成感 ⑤ 忍耐 ⑥ 利他 ⑧ 共生 ⑨ 意志	- 努力してよかった。うれしい。 - ありがとう。お父さんお母さん。 - みんなが協力してくれたからやり遂げられた。ありがとう。 - 障害があってもそれを乗り越えられる。

この資料は、両足に大やけどを負い、医者に「治らない」と宣告されても、様々な努力を重ねた結果、完治した後にオリンピックで銀メダルを獲得したグレンを主人公とする話である。

自分の立てた目標に向けて努力を重ねるという点は、毎朝行っている自主清掃やうずまき運動でめあてを立てて取り組んでいる本学級の子どもたちには身近な事柄である。強い意志をもち、物事を最後までやり遂げるという姿勢を追求することは、子どもたちにとって大変意味のあることである。子どもたちは、グレンの気持ちに共感しながら今までの自分の言動を見つめることができるであろう。

今回、目標に向かって努力することの意義として「よりよい自分になれる」「達成感を味わう」などを再確認させ、その上で、分かっているても実行に移せない意識と行動の矛盾について考える場を設定する。そして、「よりよい自分になれる」ための考えをみんなで話し合い、自分がより「大切にしたい考え」を見付け出すことができるようにするために、この資料を活用する。

5 指導に当たって (研究との関連)

- 「見つめる」過程では、資料の主人公の気持ちに共感できるように、意識の流れを表出させるワークシートを活用する。そのことで、子どもたちが、思考を広げるための指導方法として価値観の類型化 (視点: 対自分, 対他者, 対集団・社会) を行い、自分の考えを明確にしたり、友達と交流をしたりできるようにする。そして、思考を深める視点 (他律的, 自律的) をもって「大切な考え」を自ら見付け出すことができるようにする。これらのことにより、より高い目標にこだわり続ける自分の考えをもてるようにする。
- 「深める」過程で、「見つめる」過程とのつながりを大事にしながら、指導内容の重点化を図る。そして、主題に関連する「よりよい自分になる」という考えを取り上げ、重点化して話し合うことで、子どもたちは自分の生活を振り返り (過去)、友達の考えを踏まえて自分の考えをもち (現在)、これからの生活で「大切にしたい考え」を見付けること (未来) につなげていく。また、「自分づくりカード」にまとめる活動を取り入れることで、関連する日常経験の場面では、「大切にしたい考え」が生かされている、またはこれから生かせると気付くことができるようにし、日常生活への実践意欲の高まりを図る。

6 本 時

- (1) 目 標 自分で目標を立て、どんな困難にも負けない精神力をもって、最後までやり遂げようと努力するする心情を育てる。
 ○「思考場面1」：資料を通して道徳的価値に迫る場面「思考活動」：分類・整理する「材料」：自分の考え、他者の考え「視点」：対自、対他者、対集団・社会
 ○「思考場面2」：資料を通して道徳的価値の自覚を深める場面「思考活動」：自覚化する「材料」：自分の考え、他者の考え「視点」：他律的・自律的、過去・現在・未来
 (2) 展 開 は教師の言葉掛け は予想される子どもの反応 は重点評価項目 ☆はICT活用の留意点

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導・評価
気 付 く (5)	1 日常生活において目標をもって努力し、最後までやり通す場面について考える。 やり遂げた時にはどんな気持ちになりますか。また、なぜできない時があるのでしょうか。 ・スッキリして気持ちよかった。 ・うれしかった。やってよかった。 ←→ ・面倒くさくてやる気が起こらなかった。 ・難しかった。弱い心に負けてしまった。 目標に向かって努力するための「大切にしたい考え」は何だろうか。	○ 経験場面を幅広く想起できるようにするために、実態調査を基にした意図的指名や、「自分づくりカード」を振り返って考えられるようにする。 ○ やり通せた時の快い感情と、やり通すことができない理由を基に、意識と行動の矛盾に気付くようにし、意欲を高めたためあての設定をする。 ○ めあてに、深める過程で扱っている「大切にしたい考え」という言葉を入れることで、学習に見通しをもつことができるようにする。
見 つ め る (27)	2 資料「グレンよ、走れ」を視聴し、主人公のグレンの気持ちを中心に話し合う。 (1) 大やけどをして医者「歩けないだろう」と言われた時のグレンの気持ちについて話し合う。 ・ もう歩くことはできない。(絶望感) ・ これからどうしよう。(あきらめ) (2) 歩けるように努力している時のグレンの気持ちについて話し合う。 がんばって努力しよう ←→ やめてしまいたい ・ 何としても歩けるようになるのだ。 ・ 苦しいな、やめようかな。 ・ 努力を続ければ歩けるようになるかも。 ・ 疲れるな。努力したくないな。 (3) オリンピックで銀メダルを取った時のグレンの気持ちについて話し合う。(意義) 対自 ・ 苦勞したけど努力してきてよかった。 ・ メダルをもらえてうれしいな。 対他 ・ みんなと協力してやり遂げることができてよかった。 ・ 親に喜んでもらえる。 対社 ・ みんなが明るく楽しく生活できる。	○ 資料を視聴し、感想を出し合うことで、話し合う場面の焦点化を図る。 ○ グレンの気持ちの流れを構造的に板書することで、不安や迷いからやる気、そして達成感へと気持ちに変化する様子をとらえられるようにする。 ワークシートに表現した子どもの考えを、思考を広げる視点(対自分、対他者、対集団・社会)で教師が分類することで、子どもが自分の考えを明確にしたり、友達の考えと交流しやすくしたりしている。(分類・整理する)【ワークシート、発言】
深 め る (10)	3 これまでの自分を振り返り、やり通すことに関する「大切にしたい考え」と生活を結び付ける。 (1) 自分が最後までやり遂げるための「大切にしたい考え」は何かを見付け出す。(心構え) 対自 ・ よりよい自分になれる。 ・ 達成感を味わえる。 ・ やり遂げた自分が好き。 対他 ・ 喜んでくれる人がいる。 ・ お母さんから褒められる。 対社 ・ みんなの喜ぶ顔が見たい。 ・ みんなが明るく楽しく生活できる。 (2) その「大切にしたい考え」を日常生活のどんな時に生かしていきたいか考える。 サッカー少年団活動で練習がきつくて休みたと思った時に、「よりよい自分になれる」という考えを大切に、休まずに続けたいです。  朝のうずまき運動や城山登山競走大会など、自分が苦しい時に「喜んでくれる人がいるから」という考えを大切に最後まで走りきりたいです。	☆ 今後の生かしたい大切な考えを見付け出し、価値観を焦点化する視点(他律的・自律的)で意味付けしたり、指導内容の重点化を図る視点(過去・現在・未来)で主題に関する考えへの認識を深めさせたりして、見付け出したい「大切にしたい考え」にこだわりをもつことができている。(自覚化する)【ワークシート、「自分づくりカード」】
高 め る (3)	4 教師の説話を聞き、最後までやり遂げようとする実践意欲を高める。	☆ 日常生活場面の写真を電子黒板に映し出すことで、資料から離れ、自分自身のこととして考えられるように自覚化を図る。 ○ 「自分づくりカード」を用いて、本主題に関する「大切にしたい考え」をまとめる。そして、これまでの経験と結び付けて考え、今後の生活への実践意欲を高められるようにする。 ☆ 子ども自ら書画カメラを使い、「大切にしたい考え」をどんな場面で用いるか発表する。 ○ 実態調査を生かし、称賛の言葉掛けや経験の振り返りを助言することで、書き込むことが困難な子どもも、自分の考えを記入することができるようにする。

第4学年道徳「勤勉・努力、忍耐」における評価資料

重点評価項目

- 1 ワークシートを活用して主人公の気持ちを考える活動を取り入れることで、自分の思いを表現し、友達の思いと比べ、自分の考えを広げている。
- 2 指導内容の重点化を図り、「よりよい自分になれる」という本主題に関する考えについてみんなで話し合うことで、自分の考えを深めている。

評価の観点

- ア 主人公の気持ちを文章で表現している。(重点評価項目1)
- イ ワークシートを基に、友達の思いと比べている。(重点評価項目1)
- ウ 本主題に関する考えについて、自分なりの考えをもてている。(重点評価項目2)
- エ 本主題に関する考えについて、友達の考えを自分の考えに役立てている。(重点評価項目2)

評価の実際

「ア 主人公の気持ちを文章で表すことができるか。」について(重点評価項目1)

- ① 主人公の気持ちを考え、自分なりの言葉で表現する。【発言・ワークシート・観察】

〈事前〉

〈事中〉

〈事後〉

- ② 主人公の気持ちを考え、自分なりの言葉で表現し、その理由を伝えている。【発言・ワークシート】

〈事前〉

〈事中〉

〈事後〉

「イ ワークシートを基に、友達の思いと比べることができるか。」について(重点評価項目1)

- ワークシートを基に、ペアの相手と思いを伝え合っている。【発言・ワークシート・観察】

〈事前〉

〈事中〉

〈事後〉

「ウ 本主題に関する考えについて、自分なりの考えをもてているか。」について(重点評価項目2)

- 本主題に関する考えについての全体での話し合いの場で、自分の考えを積極的に発表している。

【発言・「自分づくりカード」・観察】

〈事前〉

〈事中〉

〈事後〉

「エ 本主題に関する考えについて、友達の考えを自分の考えに役立てているか。」について(重点評価項目2)

- 友達の考えを生かして「大切にしたい考え」をまとめている。【発言・「自分づくりカード」・観察】

〈事前〉

〈事中〉

〈事後〉